

古い町並み生かそう

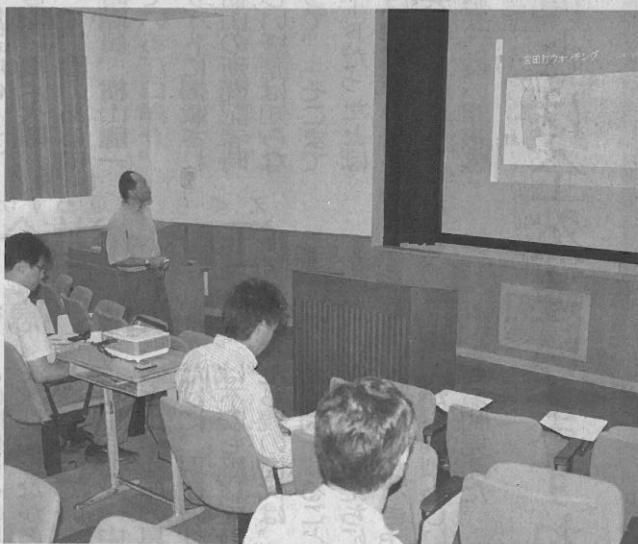
県建築士会 上伊那支部 まちづくり勉強会

宮田

県建築士会 上伊那支部(菅沼孝夫支部長)は18日、村のまちづくりをテーマにした勉強会「自慢のまち宮田」を村民会館で開いた。会員や村職員ら約15人が参加。村内に点在する歴史的建築物を生かしたまちづくりについて考えた。

昨年行ったまち歩き企画「ぶらり宮田村」で旧市街地に江戸、明治、昭和初期の貴重な住宅などが残っていることが確認されたことから、「近隣市町村では見られないまちの宝を守ろう」と勉強会を開催。村内の建物をはじめ、京都や木曾地方の町並みなどを参考に、古い町並みを生かしたまちづくりへの理解を深めた。

同支部社会貢献委員会の丸山幸弘委員長「伊那市美原は、村の町並みについて「火災などから免れ、宿場町に江戸時代の民家が残っているのは貴重。村の自慢になる」と強調。「古いから、耐震性が低いからと建て替えてしまっ



古い町並みを生かしたまちづくりについて考えた勉強会

防災講座の需要高まる

伊那市 震災の影響で大幅増

伊那市が企 画する「防災 回、今年に入っ 必要が高ま



2010年は18回だったのに対し、11年は71回、今年に入っ 必要が高ま

生後の対策などを講演する。希望によって防災グッズの使い方やロープの結び方なども講習する。震災前はほとんどが各地区の防災組織からの依頼だったが、現在では高齢者施設や学校、婦人会などさまざまな団体から申し込みが入る。保育園はすでに、市内の全園で保育士を対象に講演した。同課は「話をただ聞くだけ

づくりをリードする責任もある」などと呼び掛けた。また地下埋設された水路やあまり手の入らなくなったお堂などを見直すこともまちづくりのキーワードになると指摘。行政の取り組みにも期待を寄せた。菅沼支部長は「貴重な歴史的建造物を生かしたまちづくりをどう進めていくか、建築士会としての協力のあり方、住民参加の方法を含め村全体で考えていくきっかけになれば」と話していた。

27日地域資源再発見プロジェクト講演会

夢の会駒ヶ根

駒ヶ根

NPO法人 夢の会駒ヶ根は27日午後7時から、地域資源再発見プロジェクト講演会(駒ヶ根市、駒ヶ根観光協会共催)をJR駒ヶ根駅前ビル・アルパで開く。一橋大学大学院法学研究科の辻塚也教授が「地域づくりと郷土の観光資源活用」と題して講演する。参加無料。多くの聴講を呼び掛けている。

井上淳司作品 演奏会来月1日

音の芽ホール

駒ヶ根市上穂南の「音の芽ホール」は9月1日午後7時から、「井上淳司作品演奏会」を開く。作曲家で東邦音楽大学大学院、同大学、同短期大学准教授の井上さんが自身の作品をピアノ演奏する。ピオ